

故人をしのぶ

保田正人先生の思い出



ご略歴

- 昭和18年9月 台北帝國大学理農学部農芸化
学科卒業
- 昭和22年8月 福岡青年師範学校助教授
- 昭和25年5月 活水女子短期大学助教授
- 昭和29年10月 長崎大学水産学部助教授
- 昭和34年12月 農学博士（九州大学）
- 昭和38年5月 長崎大学水産学部教授
- 昭和38年9月 医学博士（長崎大学）
- 昭和44年2月～昭和50年1月
長崎大学水産学部長
- 昭和52年2月～昭和59年10月
長崎大学水産学部長
- 昭和59年10月～昭和63年10月 長崎大学長
- 昭和63年11月 長崎大学名誉教授
- 平成元年4月 佐賀女子短期大学長
- 平成元年9月18日 正三位勲二等旭日重光章

協会理事の保田正人先生が平成元年9月18日逝去されました。昭和63年10月、長崎大学長を任期満了ご退官後、平成元年4月、佐賀女子短期大学長として女子教育に専心なさる矢先のご他界がありました。

先生は大正10年1月1日兵庫県でお生れになり、神戸一中卒業後、戦後一貫して教育畑を歩かれました。厳しいなかにも温情に溢れ広い学識と豊かな人間性で多くの有為な人材を養成されておられます。学内において各種の委員を歴任されたのち、48歳の若さで水産学部の学部長に就任、以来通算7期14年、水産学部の発展に非凡の才を発揮され、また学長就任後は任期4年の間に、数多くの学内施設の整備、歯学部、薬学部の博士課程並びに工学部と水産学部融合の特色ある総合大学院博士課程を設置されるなど、豊かな文教行政の経験と多彩な人脈を生かして、長崎大学の発展に寄与されました。学外では日本農芸化学会（9期）、日本栄養食糧学会（8期）の各評議員、文部省農学視学委員（7期）として、

学会の発展、農学教育の指導をされる一方で、専門分野から長崎県や市の公害行政に大きく貢献されました。これらの功績により種々の表彰をうけておられます。

昭和45年末いかなるご縁によるものか私は、「水産学部の食品添加物の講義に来てくれないか」と誘われて以来20年間、県や市の委員、水質審議会（副会長）、市の公害対策審議会（会長代理者）、あるいは当協会理事として、特に昭和61年4月から63年10月までは学生部長として、大学入試や学生の厚生補導、留学生の世話など一緒に仕事をさせて頂きました。先生は性豪放にして細心、しかも緻密な気配りで人々に接し、また絶えず時代の先を見て地方国立大学の発展のため全力投球されていました。晩年の4～5年つねにお傍にいて人間としての生き方を学ばせて頂きました。「人生その気になれば!!」の先生の言葉を思いながら謹んで御冥福をお祈りいたします。

（長崎大学薬学部教授 当協会理事 有吉敏彦）

—故人をしのぶ—

鎌田政明理事の逝去を悼む



鎌田政明博士は、本協会創立以来の理事であったが、平成元年3月5日脳溢血のため逝去された。

同博士は1923年（大正12年）3月、鹿児島で出生、旧制七高から昭和20年9月東北帝大理学部化学教室を卒業後、同23年3月まで同大学助手を勤務し、鹿児島工専、七高を経て、同25年鹿児島大学講師、同41年理学部教授となり、63年3月停年退官、同4月鹿児島大学名誉教授の称号を得られた。

鎌田博士が鹿児島大学に奉職されたのは、ちょうど新制大学発足当時であった。旧制高専から昇格した大学は、大学とは名ばかりで研究設備はほとんどなく、研究費もすこぶる貧弱であった。特に戦災を被ったところでは、全くといってよいほど、研究施設をもたない状況であった。このような中から同博士は、一貫して火山噴出物および温泉の地球化学的研究にあたられた。当時、同じような境遇にあった全国の新制大学の研究者たちは、同博士の研究活動に大きな刺激を受け、励まされるところが大きかった。

同博士は、塩素やフッ素などの微量分析法を開発し、これを応用して火山ガスや温泉水中のこれらの分布を検討された。

同博士の最後の業績は、「火山活動の内湾における影響の地球化学的研究」であった。これは桜島の火山活動によって、同火山北部の鹿児島湾奥部海底（最深部約200m）に海底火山活動が存在し、内湾の水質と底質に与えている影響を見出し、解明されたものである。

この研究によって、噴気孔附近では通常の10倍程度の濃度の水銀が海水に存在し、堆積物中にはヒ素などの成分が濃縮していることが見出された。

これらの報告は、海底における火山活動の地球化学的影響を解明するあたらしい知見をもたらす意義をもつもので、同博士はこの研究によって、昭和62年12月地球化学研究協会学術賞（三宅賞）を授与された。

同博士は酒豪で、興いたれば談論風発のタイプで、多くの人に敬愛され、またすぐれた創意の持主であった。先年の鹿児島での世界火山温泉国際会議の開催においても、同博士の創意工夫が随處にあらわれていたようである。

惜しいかな、天、壽をかしたまわず、いまこの人材を喪いまことに痛恨にたえない。享年わずか65歳であった。

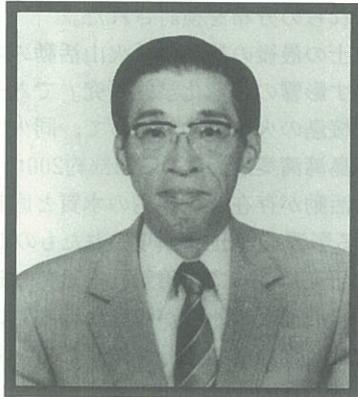
ここに、本協会のため長年月にわたり、種々御配慮を頂いたことに感謝すると共に、深く御逝去を追悼する次第である。

（福岡教育大学名誉教授

当協会理事長

細川 嶽）

元田雄四郎理事の逝去を悼む



ご略歴

昭和2年2月7日 福岡県八女市にて出生
昭和27年3月 九州大学農学部農業工学科卒業
昭和27年 九州電力株式会社入社
昭和43年 農学博士(降雨と流出に関する研究)
昭和48年 九州大学農学部助教授
昭和60年 九州大学教授
昭和63年 気象利用研究会設立、会長
平成元年3月8日 逝去(62歳)

元田雄四郎理事は、肝不全のため福岡大学附属病院で御家族、担当医の皆様方の手厚い看護の甲斐なく逝去されました。

元田理事は、誠に温厚なお人柄で、絶えず笑顔をもって人に接することを心がけられ、熱心に後進の指導にあたられると共に、旺盛な研究意欲と実行力によって学術研究に専念され農業気象学の発展に大いに貢献されました。

九州電力入社当時は、戦後の復興期であり、国民生活の元である電力供給に水資源の安定確保が最も重要な課題で、当時の若手研究者のホープとして水資源である降水量の研究を推進され、その研究は、学位論文「降雨と流出の研究」にも示されていますが、高い評価を得ています。その後は気象レーダーを使っ

た強雨特性の研究から災害科学の推進にも尽くされました。

一方近年は、高度経済成長の反面生じた環境汚染の社会的問題の対応に献身的努力され、地形に関係ある農業気象学の前進のみでなく、気象をうまく利用するという気象利用研究会を設立し、会長に推挙されました。

豊かな個性に恵まれ、ユーモアを解し、酒を愛した元田理事は数多くの友人から敬愛を受けられました。このような有為な人材を喪ったことは社会のためにも、本協会のためにも誠に惜しいことで悲しみにたえませんが、衷心よりご冥福をお祈り申し上げ哀悼の意を表します。

(九州大学名誉教授 当協会理事 坂上 務)